

御用聞きSE
人月商売

不要!

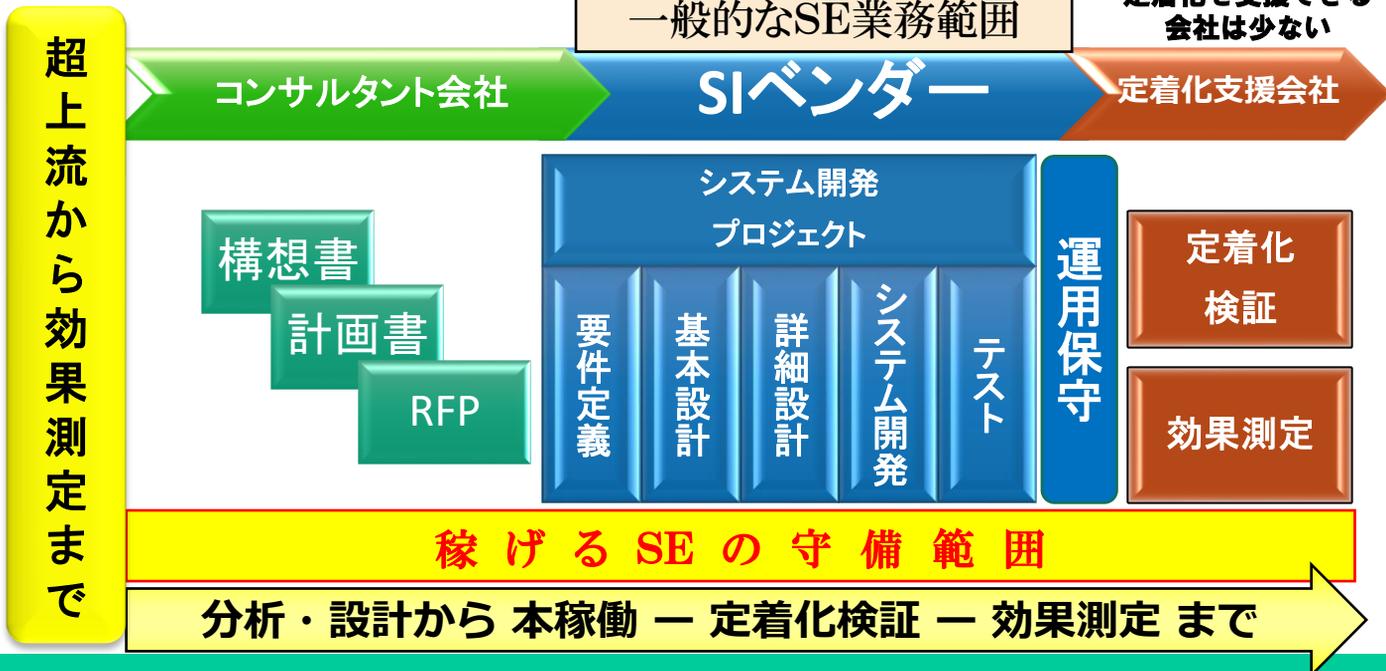
第29回 稼げるSE養成講座

コンサルタント領域をSE領域に取り込むSE育成

受講対象者 (実務経験3年以上のSE、及び幹部社員。)

- ①「御用聞きSE」では、工数ばかり掛かって、顧客に利益をもたらさないと感じている方。
- ②ERP更新期だが、新たなERPを選択しても、顧客利益に繋がらないと感じている方。
- ③ハード・ソフトを何度も入れ替えたが、顧客利益には、繋がっていないと感じている方。
- ④顧客要望が、間違っていると感じるが、「正しい仕組」をご提案できないと感じている方。
- ⑤大半の業務をICT化したが生産性向上、欠品発生が改善されず品質・生産性向上も、無いと感じる方。

本プログラムが目指すSE業務とは



日時・開催方法

- 日時 : 2021年8月24日 - 2021年11月9日 毎週火曜日 全12回 13:00~17:00 (別添のカリキュラムを御参照下さい。)
- 方法 : TV会議方式オンラインセミナー (定員5社 限定)・・・マンツーマンの塾運営を目指しています。(卒業生200名以上)
- 受講料 : 15万円(税別) / 人 (「厚生労働省人材開発支援助成金」の対象講座。(約4割程度の助成金を受けることが出来ます)
(参考HP: [厚生労働省「人材開発支援助成金」](#) 不明点はお問合せください)
- 申込締切日 : 2021年7月9日(金曜日) 助成金申請のため締切日遵守ください(*申請手続きは、お手伝いします)

本講座の体系「稼げるSE養成講座」は以下の3つのコースがあります。

1. 原理原則編 (今回ご案内)

2. 分析設計編

3. 定着化/効果測定編

1. 各種管理の各業務毎の正しい目的・方法手順を体系的に取得できる唯一の講座
2. 現状分析から基本設計・RFP作成を行い、顧客の基準標準化を指導できる技術を取得する唯一の講座
3. 定着化・効果測定技術を取得する、唯一の講座です。

[本講座の特徴] ~標準化の実務演習が大人気~

「実際原価」は
ウソの原価です！

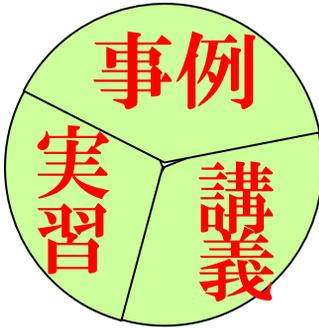


**リアルタイムで質問も出来る
“双方向型”の「塾」です。
移動時間も不要！**

※口頭での質問、質問カードによる講義割込み
(ZOOMを使用)

1. 必要機材の無償貸出 2. 事前接続テスト の実施

塾 の 特 徴



講義と事例

- ①講師は「先生」ではなく何十年ものBPR構築に携わった熟達SE
- ②千社近い事例で原理原則と実務の技術伝承

- ①受講前に「レベル測定」を実施し、受講者のレベルに応じた内容にカスタマイズを行います。

- ②業務知識と管理技術知識を、習得できます。

- ③豊富な事例で即戦力を目指す講座です。

演習と実習

- ①毎回ICTで解決できない課題を演習
- ②基準標準化の実習

- ①ERP導入の失敗は基準・標準化の未整備です。

- ②設定方法を習得できます。

- ③知識だけではなく、実習で体得します。
(希望者のみ、無償)

熱意

- 毎回の熱意ある受講者にお応えするため、
- ①無制限の「補講」
- ②再受講の無償化

- ①受講期間中、不明点の「補講」は、無制限

- ②修了証受領者は、一部または全部の講座を無償で再受講できます

「受講者の声」

大手ITベンダ(大阪)取締役部長

2年目の新人と共に、『顧客に利益をもたらす生産管理の考え方』を学ぶため参加させて頂きました。

社員はシステム設計開発に従事していますが、顧客視点で業務の本質を改革する機会は少なく、非常に良い勉強になりました。

弊社は、関西地区に7か所の事業所を抱えますが、それぞれ管理技術を習得することが必須となっております。今後、弊社メンバーに本講座を受講させ、SE技術者としての真の実力アップを図りたいと思います。

中堅ITベンダ(東京) SE課長

先生の皆さんは「御用聞きSE」との指摘は当初は反感を持ちましたが、20年間の経験を顧みますと、ご指摘通りで反省しました。

確かに顧客様のご要望には間違いが多くあり管理技術でのご提案に確信が持てました。

大手ITベンダ(名古屋)SE課長

月曜日に受講し火曜日に「課題の提出」は、きつく、最初は脱落しそうになりました。

予習の重要さと受講時の姿勢のご指導を受け「正しい方法手順」で受講する事により

当日中の「課題提出」が容易に出来ました。

「間違ったことを懸命にやる」事の問題を実感出来、管理技術の正しい方法手順を顧客にご提案する事の使命を認識出来ました



ABC協会の推薦理由

我が国のモノづくり企業の生産性向上は喫緊の課題です。当講座は「研修内容が非常に充実しており、これを受講することが各ITベンダ及び製造業の皆様には大きな効果をもたらすと考えているので、これを推薦します。

1. 講義

2. 事例

3. 演習・実習

教材について

1. 業務知識編：「管理技術」の前に、「業務知識」を習得頂きます。業務・組織形態から、一般企業の歴史を学び、その知識から顧客のレベルが判断できます
2. 管理技術原理原則編：管理技術を体系化し、検証された技術のみ網羅されたTEXTで顧客の課題解決のノウハウ集です。
3. 学習ライブラリ：有償版ですが、受講期間中は使用できます。座学では理解しづらい項目について、受講者が実際の数値を入力し結果を検証できるようになっています。
4. 毎回の補助教材：受講者のレベルに応じて、また受講者からの要望で、補助教材を提供しています。
5. 「実習」参加者は、必要に応じて「作業分析ソフト」等の、実習に必要な機材・ソフトの貸与があります。

A. BPRの成功は、SEの基準・標準化の顧客への正しい指導により実現される！

基準・標準化の体得

- ①作業標準・標準時間の設定
製造業・土木建築業・農業他、人が動き成果物を生み出す業種には、必ずベテランと素人が存在します。
全員をベテランにするのが、作業標準です。これが存在しない現場には、「工程管理」は存在しません。
- ②在庫管理には、ロケーション管理が前提になります。「実習」でこれを習得します。
- ④原価管理で習得しづらい「チャージ計算」を「実習」で取得します。
- ⑤多品種生産時のBOM構築を「仕様展開技法」で解決する方策を「実習」で取得します。
- ⑥購買・外注・工程の各種リードタイムの設定方法を「実習」で取得します。
- ⑦安全在庫・発注点在庫の設定方法を「実習」で取得します。

儲かる仕組を顧客に提案できます。

- ①生産計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ②購買計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ③製造計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ⑤在庫低減・棚卸に合理化を事例を通じて取得します。
- ⑥工程管理で生産性を向上させる技を事例を通じて取得します。
- ⑧品質管理の日程化、合理化を事例を通じて取得します。
- ⑨BOMの100%精度と多品種のBOM構築の技を事例を通じて学ぶ
- ⑩原価管理の革新（原価低減）を事例を通じて取得します。

受講者に「熱意」があれば、「塾」は、どこまでもサポートします。

- ①受講期間中、不明点は「補講」で何度でも学習できます。
- ②修了証書受領者は、「再受講制度」により、無償で何度でも再受講できます。
- ③講師は、BPR構築の熟達者で、「先輩が後輩を育てる」事が塾の目的です。
「話は下手」でも、受講者の「分からない事」には、納得頂けるまでサポートをします。
- ④現実の顧客サポートの課題を「個別相談」で解決できる体制があります。—700社以上のBPR構築実績があります。そのノウハウを利用ください。
- ⑤再受講制度（無償）を利用され、3回受講されている社長様がいらっしゃいます。何度でも再受講可能です。

B. 厚労省助成金対象講座です。

96%の受講企業が、助成金を申請受領されています。（詳細は別紙）

対象範囲拡大！
大企業も
対象になりました！



お申込みはこちら

<https://kan-lab.sakura.ne.jp/postmail/askjyuku.html>

または、メール「asguide@kan-lab.com」宛に申込可能です

また、FAXでお申込みの場合は、必要事項をご記入の上、「0798-55-8779」へFAX送信ください。
なお、誠に勝手ながら満席になり次第、申込を締め切らせていただきますので、ぜひお早めにお申し込みください。
申込締切日：7月9日（金）

参加ご希望記入欄	<input type="checkbox"/> 受講する	<input type="checkbox"/> 詳しい説明を聞きたい	
----------	-------------------------------	-------------------------------------	--

貴社名(必須)	ふりがな		
ご住所(必須)			
TEL(必須)		FAX	
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな		
E-Mail(必須)			
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな		
E-Mail(必須)			
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな		
E-Mail(必須)			

【お客様の個人情報の利用目的】
 お客様がご記入頂きました個人情報は、本セミナー資料・受講票の送付および、弊社セミナーのご案内送付以外に使用いたしません。
 また、第三者にこれを開示することはいたしません。
 お客様が記載された情報は、(株)管理技術ラボの個人情報保護ポリシー(<http://www.kan-lab.com/policy.html>)に基づき、適切に管理いたします。

同意する

塾長

八木 弘泰

 中小企業診断士
 特種一種情報処理技術者



講師
吉川 正一


講師
長町 真由美


講師
八木 達也


50年間、6百社に及ぶ企業の業務再構築指導に従事し、又、企業診断業務は2千社を超える実績を持つ。IT技術+「管理技術」で年商比2%の「新たな利益」の実現を目的に業務再構築指導で活動している。1970年代に「死語」化した「管理技術の復興・普及」をライフワークとし各地でのセミナーは年間30回以上に及ぶ。

40年間、コンサル・SE経験を持ち、製造業を中心に数百社の業務再構築に従事、複雑系の仕組を「科学化」する才能の持ち主。「管理技術で利益の獲得」を担うASGUIDEツール開発の責任者(経産省システムアナリスト)

業務再構築指導は20年間に及び、指導実績も加工業から再生医療企業までの広範囲。職務分析技法の特許を取得(ITTVC認定 ファシリテータ)

作業改善をベースとした標準時間の設定、在庫動態分析からのロケーション設定等々の「標準化・標準化」を専門とする管理技術コンサル

CHECK 厚生労働省 人材開発支援助成金について
 当該講座は「助成金」対象講座で、受講前の申請により助成があります。
 * 大企業も対象になりました。
 参考HP: [厚生労働省「人材開発支援助成金」](#)



不明点はお気軽にお問い合わせください。



セミナーに関するお問い合わせ先

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
1	08/24(火) 14:00 ～17:00	キックオフ 管理技術による利益の獲得	1、塾の進め方と演習・補講について 2、管理技術とは 1) ICT投資の採算性と失敗要因 2) 一生懸命間違った仕事をやっている。 そのため一人当たりGDPは世界26位！ 3) 管理技術による利益の獲得 3、ICT技術と業務知識では100%失敗する
2	08/31(火) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術 (生産計画、資材計画)	1、業務毎の管理技術（生産計画、資材計画） 1) 業務毎の目的・課題 2) 管理方式の説明 －生産計画は神業、資材計画は機械技！ （計画立案・検証・MRP・製番管理等） 3) 業務フロー説明（ASGUIDE分析記号にて） 4) アウトプットの例示 5) 演習
3	09/07(火) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術（購買管理）	1、業務毎の管理技術（購買管理） 1) 業務毎の目的・課題 2) 管理方式の説明 －発注手配は95%自動化できる！ （95%以上の自動化と業者指導&開拓） 3) 業務フロー説明 4) アウトプットの例示 5) 演習
4	09/14(火) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術（工程管理）	1、業務毎の管理技術（工程管理） 1) 業務毎の目的・課題 2) 管理方式の説明 －工程管理は作業指導！ （負荷山積み、作業指図・実績、作業指導・ モーションマインド・動作経済の原則） 3) 作業標準/標準時間の設定の説明 （作業標準・標準時間の定義と設定方法手順） 4) 業務フロー説明 5) アウトプットの例示 5) 演習
5	09/21(火) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術（在庫管理）	1、業務毎の管理技術（在庫管理） 1) 業務毎の目的・課題 2) 管理方式の説明 －在庫管理の目的、低減✖、在庫精度維持○！ （ロケーション管理、出庫指示、循環棚卸等） 3) 業務フロー説明 4) アウトプットの例示 5) 演習
6	09/28(火) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術（部品表管理）	1、業務毎の管理技術（部品表管理） 1) 業務毎の目的・課題 2) 管理方式の説明 －部品表の精度維持は100%！ （結合部品表、設変と手配切替、仕様展開等） 3) 業務フロー説明 4) アウトプットの例示 5) 演習

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
7	10/05(火) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術 (受注出荷管理)	1、業務毎の管理技術(受注・出荷管理) 1) 業務毎の目的・課題 2) 管理方式の説明 —目的は、製造・出荷依頼と生産計画源泉 3) 業務フロー説明 (受注、出荷指図、計画源泉、受注残維持) 4) アウトプットの例示 5) 演習
8	10/12(火) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術(品質管理)	1、業務毎の管理技術(品質管理) 1) 業務毎の目的・課題 2) 管理方式の説明 —ライン化と日程化及び検査依頼書の自動化 3) 業務フロー説明 (検査指図/合否判定、ロット廻及等) 4) アウトプットの例示 5) 演習
9	10/19(火) 13:00 ～17:00	業務毎の管理技術(原価管理)	1、業務毎の管理技術(原価管理) 1) 業務毎の目的・課題 2) 原価管理とは 3) 財務会計と原価管理 4) 管理方式の説明 —コスト低減と財務会計目的 (標準/実際原価・チャージ計算・原価差異) 5) 業務フロー説明 6) アウトプットの例示 7) 演習
10	10/26(火) 14:00 ～17:00	生産管理のICT事例 (学習ライブラリで疑似体験)	1、生産管理のICT機能とマンフローを 学習ライブラリを使用し、実機で学ぶ。 2、ICTと人の役割をイメージする。 (生産計画の立案、MRP他を演習) 3、MRP等の計算ロジックを体得する。
11	11/02(火) 14:00 ～17:00	分析・設計・定着化・効果測定技術 の本当の技術を学ぶ(概要)	1、分析・設計・定着化・効果測定技術の 正しい考え方を学ぶ 1) 問題点の棚卸「現状分析の手法」 2) ルーティンワークの設計「基本設計の手法」 3) 例外処理と人の行動設計「詳細設計の手法」 4) ノウハウの科学化「データ構築の手法」 5) 設計通りに運用しない「定着化の手法」 6) 経常利益5割UP「効果の測定手法」 2. コンサルタントが持つべき「姿勢・心」
12	11/09(火) 14:00 ～17:00	管理技術 原理原則編のまとめ	1、成果発表 2、原理原則のまとめ